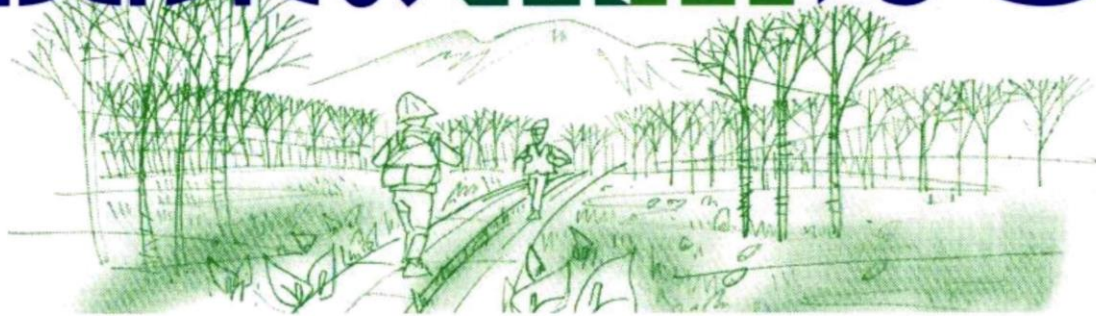


令和5年9月1日

第231号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



赤城山の雲海（群馬県桐生市）（群馬森林管理署撮影）

- 国産材安定供給の取組・・・・・・・・・・・・・・・・資源活用課・・2
- 360度カメラの活用・・・・・・・・・・・・・・・・技術普及課・・4
- 環境放射線モニタリング調査事業について・・森林放射性物質汚染対策センター・・6
- 令和5年度優良職員等表彰について・・・・・・・・下越森林管理署村上支署・・7
- 森づくり最前線・・福島森林管理署 小野町森林事務所 森林整備官 石川喜規・・8

国産材の安定供給の取組

資源活用課

1. 「国有林材の安定供給システム販売」の実施

関東森林管理局では、需要の拡大が必要な一般材と低質材の計画的、安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大、原木の加工・流通の合理化等に取り組んでいます。この取組の一つとして、製材工場をはじめとする需要者との間で国有林材の販売に関する相互協定を締結し、協定者に対して国有林材を計画的に販売する「国有林材の安定供給システム販売」（以下「システム販売」という。）を実施しています。

令和5年度のシステム販売については、第1次募集55販売物件（32,668 m³）に対し、54販売物件、110件の申請があり、47販売物件（273,575 m³）について5月19日に協定を締結しました。第2次募集6販売物件（37,080 m³）に対し、全6販売物件に申請があり、7月14日に協定を締結しました。

なお、このシステム販売の第1次募集で協定を締結した47販売物件のうち、9販売物件（7,610 m³）が民有林所有者等と連携して、民有林材と国有林材を一括して販売する「民有林と連携した林産物の安定供給システム販売」です。国有林材を対象とした販売のほか、民有林における施業の集約化、未利用材等の有効利用の取組を推進するため実施しています。今後もその販売方法を推進していきます。



システム販売を行う丸太

2. 関東森林管理局供給調整委員会の開催

関東森林管理局では、令和5年度の第1回関東森林管理局供給調整委員会を7月5日に東京事務所で開催し、関東森林管理局管内の木材価格や木材需要動向の報告を踏まえ、国有林材の供給調整の対策を検討しました。

この委員会では、「国産材製品の荷動きは悪く、製材・合板工場では減産や原木の受け入れ制限が継続している。原木については、工場の減産の継続に加え虫害時期となり、荷動きは鈍化し、価格も低下している。今後については物価高による住宅着工への影響が懸念され、需要・価格動向は不透明である。一方で、輸入材の在庫調整が進み、製品市況に下げ止まりの雰囲気が出てきたこと、合板において流通在庫が不足していることから、今後の荷動きの回復、価格修正を期待する」といった意見がありました。

このような中、関東森林管理局では、虫害時期であることも考慮し、原木の過剰な供給を抑えるため、生産事業において間伐を優先して主伐の実施時期をできるだけ遅らせる取組を行っているほか、各地域の需給に応じて、販売方法をシステム販売と委託販売等で柔軟に調整していく旨を報告しました。

以上のことから、当面の間、現在の取組を継続するとともに、引き続き情勢を注視して、供給調整が必要となった場合には、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるようにするとの検討結果となりました。

関東森林管理局では、討委員会の検討結果を踏まえ、現在の取組を継続するとともに、今後の状況の変化に対応できるよう、各地域の関係者の意見を把握しつつ、引き続き木材需要の動向などに注視していきます。



令和5年度第1回関東森林管理局供給調整委員会

360度カメラの活用

技術普及課

国の森林・林業施策の基本的な方針等を定める森林・林業基本計画が、令和3年6月15日に新たに閣議決定されました。

新たな基本計画では、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を掲げており、森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済を実現していくことを目指しています。

近年、ICTなどの新技術の開発が著しく進展していますが、森林・林業においても、新技術を活用し、森林管理や林業の効率化等を図ることが期待されています。

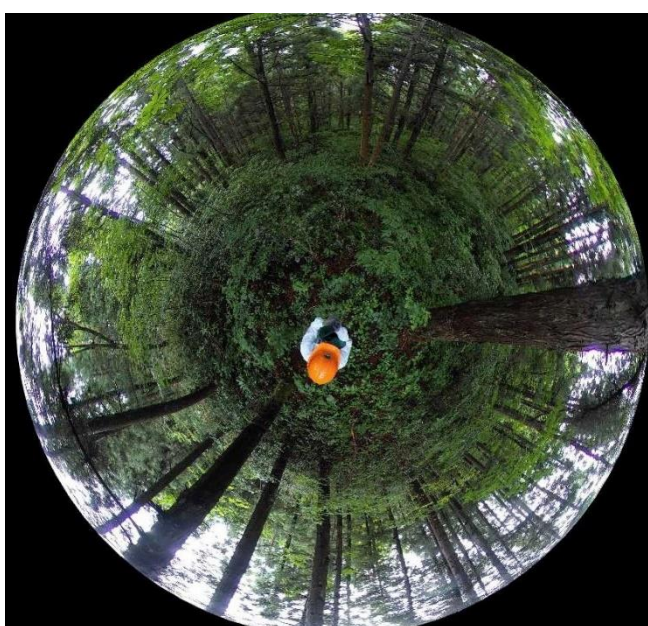
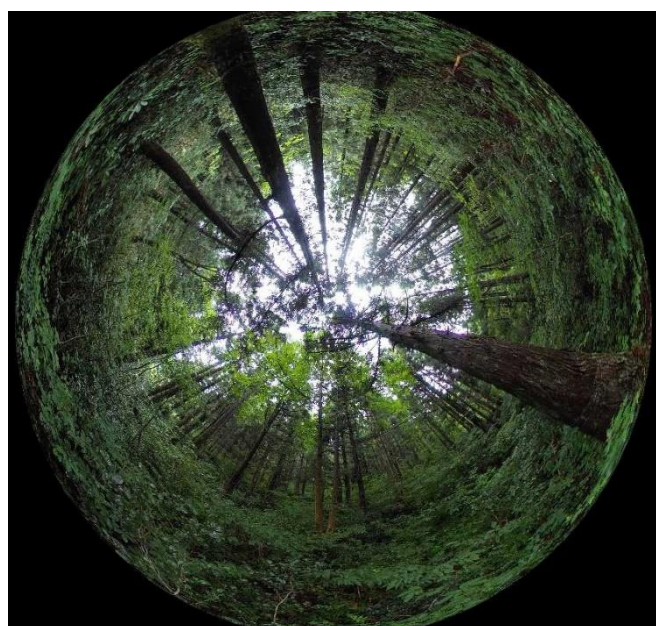
このような中、各森林管理署等では、新技術を国有林野事業に活用していく取組を行っており、様々な取組の中から360度カメラの活用についてご紹介します。

360度カメラを使用した画像をここ数年、様々な場面で見ることがどんどん増えてきています。

360度カメラは一度に上下左右全てを撮影でき、画像の視点を閲覧者が自由に変えて見ることができます。また、専用ソフトを使用することで、平面な画像から臨場感ある立体的な画像を見ることができます。

このような機能をもつ360度カメラを使用することにより、林冠のうっ閉具合や下層植生などの林況の把握、山地崩壊や林道の流失などの災害状況の把握に活用でき、通常のカメラ画像の何倍もの情報が得られます。

360° カメラによるうっ閉具合や下層植生の画像



また、360度カメラ画像とweb等に公開できるクラウドサービスを組み合わせ、ツアー（複数の360度画像と地図で構成された画面の中の旅のようなもの）を作成することができます。実際に森を歩いているような臨場感ある画像による「国有林のPR」「森林ツアー」「森林環境教育の教材（施業地のツアー）」「試験地や実証地の経過観察等の記録」を既に公表しています。さらに、立木販売時の現地案内の代わりに「ネット上での現地案内」を行うなど様々な分野でも活用しています。

森林ツアーなどの事例



今回は、360度カメラの活用事例のいくつかをご紹介します。紹介した事例のほか安全管理面での活用など、今後様々な分野でも利用できると考えておりますので、引き続き360度カメラを活用した取組を進めていきます。

360°カメラの取組事例が、令和5年2月に開催された「令和4年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会」でいくつかの森林管理署等から発表されています。

スライド発表：「[360度カメラの活用](#)」・・・下越森林管理署

ポスター発表：「[森林ツアーで学ぼう！ ～今日からあなたも樹木博士～](#)」

・・・福島森林管理署

森林放射性物質汚染対策センター

「[360°カメラ・360.bizの活用 ～画面の先に広がる空間～](#)」

・・・技術普及課

詳しくは、関東森林管理局ホームページに掲載されています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sidou/kanto_presentation.html

環境放射線モニタリング調査について

森林放射性物質汚染対策センター

福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が飛散し、環境汚染が発生してから12年が経過し、福島県内では避難指示区域の解除が進んでいます。解除された区域において森林施業を適切かつ円滑に再開していくため、当センターでは、国有林内の空間線量率や放射性物質による汚染実態等を把握するモニタリング調査を平成26年度から毎年度実施しています。

モニタリング調査の内容は、大きく分けて次の3つの項目となります。

1つ目は、避難指示が解除された区域で森林施業を円滑に再開できるよう、国有林内の汚染状況の把握と将来の空間線量率を予測するための空間線量率調査です。2つ目は、調査地点の立木の部位ごとの放射性物質濃度の測定と空間線量率との相関等の把握を目的とした立木放射性物質濃度調査です。3つ目は、立木内の放射性物質と土壌との関係を把握するための森林土壌放射性物質濃度調査となります。

令和4年度の測定結果については、空間線量率は平成26年度からの低減率53.7%となっており、これは物理学的減衰に基づく予測に沿った推移となっています。また、立木と土壌の放射性物質濃度については、樹皮が比較的高く、材部（心材と辺材）では僅かな値となっており、今までの調査結果と同様の傾向です。土壌各層では、堆積有機物層と土壌上層（0-5cm）の放射性物質濃度が高い傾向となり、それより下層（10-15cm）では低い傾向で推移しています。

令和5年度のモニタリング調査は既に着手しており、平成26年度から数えて10巡目となっています。今後とも国有林を含む帰還困難区域の解除を見据え、長期的な森林施業のために必要となるデータを収集していきたいと考えています。



伐倒木の樹皮の放射性物質濃度測定



継続調査木の放射性物質濃度測定



アカマツ新葉・旧葉の放射性物質濃度測定
試験材料採取



採取した試験材料

今月の表紙

赤城山の雲海 (群馬森林管理署)

日本百名山、上州の名峰・赤城山（最高峰 1828m）に見られる雲海です。

赤城山は四季折々の風景が見られることで多くの観光客が訪れます。例年、梅雨の時期から初冬頃まで、雨の後や放射冷却で冷え込んだ早朝に雲海が発生します。

撮影地の鳥居峠（標高 1390m）は、かつて群馬県桐生市の利平茶屋と赤城山山頂を結ぶケーブルカーの終着駅でした。廃線後は展望台等が整備され、東側（桐生市）は筑波山方面、西側（前橋市）は赤城山のカルデラ中心部の大沼周辺を見下ろせる絶景ポイントとして人気があります。



鳥居峠（西側）から見下ろす
大沼（奥）と覚満淵(かくまんぶち)



展望台

令和5年度優良職員等表彰について

林野庁においては、毎年度、林野庁の施策の遂行に貢献し、顕著な業績等のあった職員や団体を表彰しており、このたび「下越森林管理署 村上支署」（団体）に林野庁長官賞が授与されました。

今回の表彰は、令和4年8月の新潟豪雨において早期に災害応急対策を実施し、地元住民等へ丁寧に説明・対応するなど、地域の安全・安心確保に貢献したことが評価されたものです。

8月7日に、関東森林管理局長から村上支署長に対して表彰状が伝達授与されました。災害発生からのこの1年間を振り返るとともに、引き続き、復旧・復興に取り組むことに決意を新たにしたところです。



局長（右）と村上支署長(左)

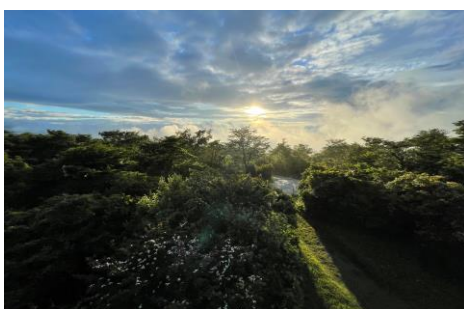
森づくり最前線

福島森林管理署 小野町森林事務所 森林整備官 石川 喜規

私の勤務する小野町森林事務所は福島県中通の東部、阿武隈高地の中部に位置しており、管内には阿武隈高地の最高峰の大滝根山（標高 1192m）、いわき市最高峰の矢大臣山（標高 965m）、東北百名山の^{よもぎただけ}蓬田岳（標高 952m）、うつくしま百名山の高柴山（標高 884m）があります。



大滝根山頂付近から小野町町方面を望む



矢大臣山 山頂



高柴山（高柴山神社）

小野町森林事務所の管内は、国有林面積が約 3,000ha と福島森林管理署の中では面積が小さいのですが、スギ等の人工林の割合が多く雪もあまり降らないため、1年を通して造林事業や伐採事業を行っております。平成 27 年には、森林総合研究所林木育種センターと福島県林業研究センター、福島県農林種苗農業協同組合、福島森林管理署の共同により、管内の矢大神国有林にスギのエリートツリー試験地が設定されており、植栽した普通苗、精英樹初期生長品種苗、エリートツリー苗の成長量を毎年調査しています。

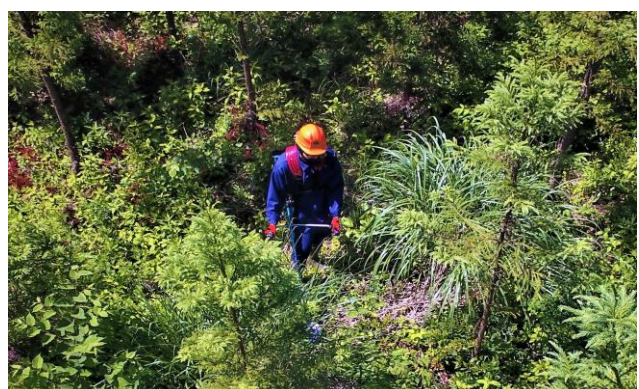
試験地内やその周辺は、クズなどのツル植物やススキなどの背の高い草が多く、枯れた箇所やツル絡みで成長阻害された箇所が目立つため、今年 5 月に福島森林管理署職員約 20 名で除伐・つる切・刈払いの保育作業を行いました。

この試験地は高速道路から近く町道に面していることから、エリートツリーの見学等に活用したいとの声があります。このため、今後も除伐等を行い、枯らすことなく綺麗な林に整備していきたいと思えます。

私は、この森林事務所に勤務して 4 年目になりました。森林事務所に勤務し人と関わることが多くなり、不安を感じることもありますが、美しい小野町の国有林を残せるように適切な森林整備・管理を行ってまいりたいと思えます。



福島署員による保育作業（現地ミーティング）



電動刈払機で除伐を行う筆者